

都市と農山漁村の共生・対流を促進させる 「プロボノ」について

地域外の関係者と連携して地域の未来を拓く

6/12 第150回 農山漁村コミュニティ・ビジネス・オンライン・セミナーを開催しました。

講師の**嵯峨 生馬**氏、そして本セミナーにご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



ふるさとプロボノ

地域をこえて「一緒につくる」を、日本中に。

新たな関係人口とつながる地域づくり
「ふるさとプロボノ」の可能性



講師：認定特定非営利活動法人 代表理事 嵯峨生馬 氏（東京都）

2024年6月12日（水）16:00～18:00

参加費無料 参加方法：オンライン（ZOOM）システムのみ

「プロボノ」とは、職業上のスキル・経験等をボランティアとして提供し、社会課題の解決に成果をもたらすことです。「公共善のために」を意味するラテン語が語源となっています。

2011年からスタートした「ふるさとプロボノ」は、大都市圏のビジネスパーソンやクリエイターなどがチームを編成し、日本各地の地域コミュニティの課題解決や地域経済の自立を応援する地域交流型プログラムです。

認定特定非営利活動法人サービスグラントは、関係人口をいかに増やすか、経済活動をどう維持展開させていくのかといった地域の課題解決に取り組む行政機関、企業、協会、NPO 法人、住民自治組織など多様なプレーヤーとプロボノチームのマッチングを行い、具体的な成果物の提供を通じて地域づくりを応援しています。

その実際の成果としては、空き家オーナーの応募が予定の3倍になったり、米粉商品の売り上げが伸びたりと、地域への大きな効果が出ています。

オーライ!ニッポン大賞実施20回を記念して、都市と農山漁村の共生・対流の活動をより、促進するために、プロボノの力【特定非営利活動法人サービスグラント様(東京都渋谷区)】を借りて、課題解決ご提案し、農山漁村の活性化と都市と農山漁村の交流を促進します。

特定非営利活動法人サービスグラントは、【ふるさとプロボノ】の活動が大いに評価されて、第18回オーライ!ニッポン大賞 審査委員長賞を受賞しています。

ふるさとプロボノは、自分の組織、地域、事業を客観的に見つめ、かけているもの、こと、サービスなどを補充し、さらなるステップアップするために、有効です。自分たちだけでは解決できない事項なども他者の目線で、思いもつかないアイデアや地域で当たり前と思っていたものが資源になったりもします。

まずは自信が感じている不安や課題をテーマにふるさとプロボノの支援によりコーディネーターに相談し適切な解決方針や具体的なプロボノワーカーを相談して決めていくことになります。第20回オーライ!ニッポン大賞では、応募者の特典として、このふるさとプロボノとの連携準備を進めています。

プロボノについて

社会的・公共的な目的のために、
職業上の経験や専門知識を活かした
ボランティア活動を意味します。

✓語源はラテン語のPro Bono Publico
(プロボノプブリコ：公共善のために)

ラテン語	英語	日本語
PRO	For	～のために
Bono	Good	善・いいこと
Publico	Public	公共的な



#社会貢献
#越境学習
#リスキリング
#社外の出会い
#働き方見直し

もともとは・・・
弁護士など、法律に携わる職業の人々を中心に、
無報酬で行う公益活動として行われていました

サービスグラントのプロボノの特徴

NPO・地域団体が抱える運営上の課題解決を目指す「プロジェクト型支援」

1,800件以上のプロジェクト



5,500名以上の参加者



NPO・地域団体、
町会・自治会、行政 など

プロジェクト型支援



20代～60代 企業人等
営業・システム開発・広報 など

期間限定・明確な目標設定

支援先団体の基盤強化に役立つ
具体的な成果物を提供

主な支援分野：
情報発信・ファンドレイジング
業務改善・事業戦略等



個人で取り組む



チームで取り組む

Copyright © SERVICE GRANT. All Rights Reserved.

まちなら 交流まこうの画面を表示しています オプションを表示

ふるさとプロボノ = 課題解決型地域交流プログラム

地域活性化に取り組む
団体の課題解決につながる
プロボノ支援

課題解決型
地域交流
プログラム

企業人、フリーランス、公務員等

地域団体*

地域の暮らし、なりわい保護
地域資源の活用や、発掘、
エリアの発展の促進

地域のなりわいを体験し、地域を理解する

農業体験。地域資源の取巻を巡って、リアルな暮らしに触れる（長野県高山村）

林業体験。山や地域の話を聞き、五感で地域の現状を知る（長野県伊那市）

地域活動や、思いを聞き、具体的な成果物を届ける

地域の現状や活動について話を聞くこと、「無人亭」ではなくなる（長野県塩田町）

課題解決の成果物を作るため、地域の方々にアラインメントを行う（長野県高山村）

超高齢化・人口減少が進む中、地域をこえて「一緒につくる」を日本中に広げることを目指し、取り組んでいます。

まちなら 交流まこう

Copyright © SERVICE GRANT. All Rights Reserved.

まちなら 交流まごころの画面を表示しています オプションを表示

事例① 長野県高山村 ワインを通じた地域振興イベント情報発信支援

参加者

つかさん 40代
総合電機メーカー勤務
コーディネーター
信州高山村観光協会

長野県北東部に位置する、人口6700人弱の農山村。信州高山村産のワイン用ぶどうを使ったワインを軸に、村の産業発展を目指し、実りの秋に開かれる最大のイベントが「おごっそに乾杯！」です。実行委員会のリソース不足から、情報発信に課題がありました。
「おごっそ」：ご馳走の意味

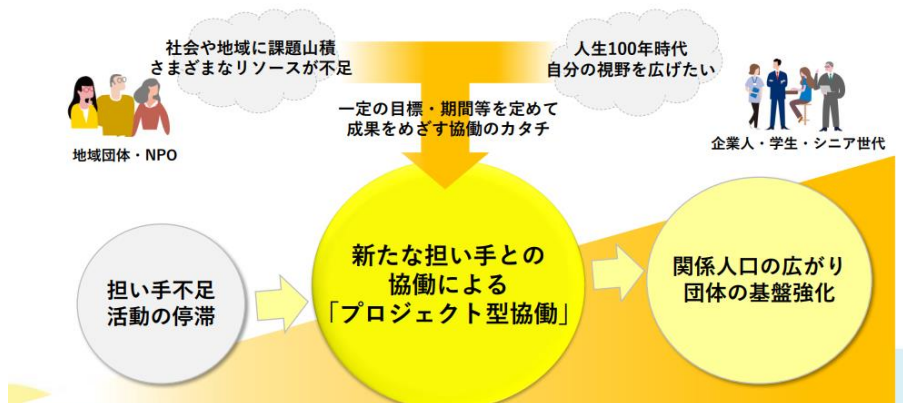
プロボノ活動：ウェブサイトの更新
今後の情報発信の強化施策の検討と提案

ウェブサイト発信強化

2泊3日の現地滞在
ワインぶどうの収穫のレクチャー

ただ“盛り上がった”では終わらせない！ 課題解決 × 関係人口拡大 を同時に実現

社会や地域の課題解決に向けて、新たな担い手を巻き込みながら、団体の活動基盤強化や新たな活動の創出に向けて重要なカギを握るのが、一定の目標・期間等を定めて取り組む「プロジェクト型協働」です。



本資料は講師の活動及び本セミナーを PR するため講演資料の一部（代表的な部分）を抜き出しまとめています。セミナーでは、より詳細、より広範囲に具体的内容を説明しています。セミナー終了後**参加者限定**で資料（28ページ）を配信しています。